

童

2017年4月28日

鯉のぼりがスロープに舞い上がる大地。タンポポが咲き誇り、コゴミが例年よりも遅れて芽を出し、逆に、タラの芽やワラビが、早く芽を出す、今年の不思議さ。しかし、全てが躍動感に溢れる春の大地です。

そんな大地の中、新学期が始まりました。慣らし保育は、過去晴天春爛漫の記憶しかないのに、今年は雨降りのスタート。しかし、雨でネガティブな気分になるのは大人のみ。(いや、大地の家族は違いますね) 雨の日は、雨ならではの光景、魅力的な世界があるのです。子ども達はカッパを着て、天候に気持ちが全く左右、影響されることなく、ガンガー(室内調理場兼東屋)でわらべうたや朝の会を楽しみ、年中年少児は、リヤカーに乗り、年長児が引っ張り、30メートルほどの旅を楽しみ、連日、原っぱやオタマジャクシの散歩を楽しみました。

毎年恒例の薪運びは、今年は春休み中に終わっているため、お仕事もなく平穏に過ごすかと思いきや、そこはやはり違いました。大地裏の杉林伐採作業が急遽決まり、大量の杉の薪(チップ用)の運び出し作業が今週から始まりました。チップ用のため、一つ一つが長く大きい。しかも、傾斜地。そして、針葉樹で更に素手。もっと驚くことに、年中児のくもさんも、単独グループとして、年長グループに対抗。29日の森の親睦会作業の過酷労働の大半をやってしまうほどの勢いです。その傍らで、年少児が、青ちゃんのバックホーや薪割機などの重機で思う存分遊び回っています。年上の子ども達の労働作業を憧れのまなざしで見つめる体験が、来年にいけるのです。

鯉のぼりのエネルギーを感じ、春の芽吹き伸びる力を吸収して、春風とぼかぼかの日差しをたっぷり浴びて、大地の丘の暮らしを十分堪能して、大地の1年を、家族で楽しんでいくことを楽しみにしております。どうぞ、よろしくお願ひします。



【縁を絶ちきる】

25年間の悲願。大地の北側に大型車も普通車も通れる道路(私設道路)を造る事が出来ました。もちろん、緊急用に使うのみで、子ども達にとっては、従来通り、リンゴ並木を四季の光景を味わいながら歩いてくるのが最適であり、陸の孤島のような静かな大地であり続ける事が今後とも続いていくのに変わりありません。

大地駐車場からの現在の狭い道は、軽自動車のみしか通行出来なく、しかもがたがた道です。その続きでも、牛の花子さんからの下道は、がたがたしておりません。このがたがた道の区間のみが、諸事情を抱えた道であり、そのために、25年以上にわたり、苦渋を味わってきましたが。それには、徳川家康の幼少期のように、ひたすら忍耐と「鳴くまで待とうホトトギス」の気分、そして、自分の代で、祖先からの系譜を断ち切る、自分が大きな器を持つていくことにより、この地域の先人達の因縁を断ち切ろうと考えてきました。そのやり方が間違っていなかったことは、「あなたと健康」にも、同じようなことが書いてあり、思わずうれし泣きをしてしまいました。

それだけに、今回の土地の取得は、まさに「あなけん」の言葉を借りれば、お天道様からの授かり物です。そして、昨日4月27日に、正式に土地売買契約が無事に結ばれ、晴れて大地の敷地となりました。(契約引き渡しがなされる前から、既にほとんど伐採、造成、そして道路ができあがっているフライング状態でしたので、実は、土壇場で契約が出来なかったら、笑いものでした!!) 短期でせつち、事を急ぐ性格の青ちゃんにしては、この25年の徳川家康楓青ちゃんは、別人でした。やはり、お天道様は見えていたのです。

それだけに、大地の裏山の造成は、25年前の大地建設と同じぐらいのエネルギーと気力をもたらすことが出来ています。25年前には、この土地の地主さんのお願いして、この土地に水道管を敷設していただいております。造成にきた大型バックホーも、25年前に大地を造成した時に、青ちゃんが使ったそれと同じ大きさの物でした。当時、現在の大地は、畑と小さなリンゴの木があっただけだったので、伐採作業などはなく、土を動かすだけで、後は、建物建築に連日エネルギーをかけるだけでした。今回は、リンゴの木の伐採に始まり、薪作業、抜根作業、道路建築、そして、チップを作るために、杉40本の倒木(花粉対策及び人工林撤廃及び日陰撤廃)、などなど、嬉しい作業が続いています。まさに、地道な忍耐作業ですが、25年の家康時代を送った青ちゃんにしては、全然問題ありません。

余談ですが、昨日27日、時を同じくして長男夫婦も、家土地を購入して契約したのです。これは偶然です。今年元旦に結婚したばかりの新婚夫婦が、マイホームを持つ・・・きっと素敵でマイホームを誰でもが想像するでしょう。ところが、彼らの物件条件は、水道ではない・水洗トイレではない・ガス灯油はいらぬ、田んぼや畑、湧き水があるなどの厳しい条件。それがあったんです。その集落で一件のみ、自分の山から、濾過装置(自然濾過)をつけて、湧き水から水道管を敷設して、水道にしている家が。彼らの理想をほとんど満たしている場所が。凄いです!!。まず、やることは、引っ越し、室内整備と思いきや、そうではなく、そこでキャンプ生活をしながら、まず自給のために、畑の整備をして、種まきが最初だと言って、そそくさと引っ越しして行きました。場所は、野沢温泉村です。

さて、話は戻り、朝の3時からの開墾造成作業。25年前にタイムスリップです。まさに、歯を食いしばりひたすら続く玉切り、薪割、チップ敷き作業。歯を食いしばっていますが、心はウキウキ。時間を追うごとに、そして、日毎に、光景が変わっていきます。外作業だけに、チェーンソーの油、木のくず、泥、チップ、土などで、洋服も軍手も身体も、毎日ドロドロです。靴下や軍手は、ほぼ使い捨て状態になってしまうので、洗濯もせずに、ずっと同じ物を外で脱いで毎日着ています。生きている、造成している、造っているという実感。

今までの、大地の北側、裏側の光景が、まるで表玄関のようになっていくのです。サンクゼール側から見ると、まるで、大草原の小さい家のように見えるから不思議です。同時に、大地室内の事務室やトイレ、2階のアカデミーの教室、ピアノ教室からの眺めも全く変わりました。別の家のように。循環作業の毎日。生きていたリンゴの木は、全て薪となり、子ども達を暖めてくれます。40本の杉は、全て、チップとなり、柔らかな道路となり、歩き心地よくしてくれます。出来るだけ、この土地の物が循環出来るように努力していきたいと願っています。外部から購入すれば、楽ですし、身体の苦勞もありません。使い捨て、まさに消費社会です。山、自然に住む楽しみは、まさに、ずくを惜しまない、手間暇をかけ、そろばん勘定をしないことだと思っています。

先日の信毎の新聞記事「最先端機器で楽しさ」ものづくり体験の中で、新聞記者の記事。「けがややけどはもちろん、接着剤などを使った衣服の汚れも全くない。工作と言え、少し痛い思いをしたり汚れたりする経験を積んでこそ作品の完成度も高まる」というイメージが何となくあったが、あっけなく壊された」「自由に、肩の力を抜いてものづくりを楽しめる環境が整いつつある時代を実感した」と結ばれていました。

きれいなクリーンなスマートなイメージ。動物園の動物たち。青ちゃんにはどうもなじめません。「失敗したらボタン一つでリセット出来る」のではなく「失敗したら、最初からやり直す」ことを積み重ねる土壌、子ども時代を過ごす事をまず保証してあげたいと願います。それを、大人が見せる事、暮らすことが大切だと考えます

25年の忍耐
土地 雄飛契約 ののか
道
ものつくり
汚れない